

令和六年度（二〇二四年度）熊本県立芦北高等学校 第七十六回卒業証書授与式
式 辞

春の柔らかな光を浴び植物が力強く芽生え始めたこの良き日に、令和六年度卒業証書授与式を挙行するにあたり、熊本県議会議員 荒川 知章 様、芦北町副町長 藤崎 正司 様をはじめ、多くの御来賓の皆様に御臨席を賜り、心より感謝申し上げます。

六十二名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。保護者並びに御家族の皆様のお喜びも一入のことと存じます。重ねてお祝い申し上げます。

振り返ると皆さんが中学校一年生の時、令和元年十二月末、中国の武漢市で原因不明の肺炎が発生しました。翌年一月に新型のコロナウイルスによるものであることが判明。日本では二月一日、感染症に定める指定感染症に、二月下旬には政府より小中高校の春休み明けまでの一斉休校が要請されました。それが大切な中学生の期間の世界の状況でした。さらに、令和二年七月豪雨で私たちの郷土は甚大な被害を受けました。その復興の最中、復旧工事を終えたばかりのこの体育館で入学式を迎えたのが皆さんでした。期待に胸を膨らませての入学、一方で、マスクで顔も十分に見えず、会話をするのにも遠慮し、黙食でご飯を食べ、少しの発熱で登校を控えるなど、様々な制約と我慢、理解が求められての学校生活が続きました。中学校、高校の六年間は心身とも大きく成長し、多くの考え方で触れることで自己を高める人生においても大切な時期です。皆さんは、大人の誰もが経験をしたことがない時代を乗り越えてきてくれました。その上で一人ひとりに煌めく高校生活があったと思います。是非、胸を張り、自信を持って欲しいと願います。

皆さんは、農業科、林業科、福祉科の専門学科で学びを深めてきました。その学習の成果を各種発表会や様々な交流学習で広め、高く評価をされました。また、部活動では、それぞれの部で互いに切磋琢磨し、絆を深め、大切な高校生活の思い出となっています。学校行事などの全ての取組みがこれから的人生を支えてくれるでしょう。自分自身の努力と仲間がいて、応援してくださった指導者や保護者の方々がいたことは忘れられません。皆さんの探究心と頑張りに私も力をもらいました。感謝しています。ありがとうございます。

さて、昨年度の芦高祭に来ていただいたコロッケさんが「あおいくま」という話をされました。「あせるな、おこるな、いばるな、くさるな、まけるな」の頭文字を取って「あおいくま」という処世訓です。自分たちの生活やその時に重ね合わせるとその時どうすれば良いかという対応の仕方を教えてくれるものです。コロッケさんは、家の台所の柱に紙に書いてお母さんが貼っていて、何かある度に思い起こしていたと話されました。「結果を出そうと焦ってしまいます、ちょっとした出来事に怒ってしまいます、自分はできると威張ってしまいます、気に食わないと腐ってしまいます、自分の弱い心に負けてしまいます」このような自分は嫌いですよね。どういう自分でいたいか純粋に思うことが大切です。

そして、人が行動するためのエネルギーとなるのが食事とともに「夢」や「希望」、「情熱」などです。夢を抱き、それを実現しようと考えて行動する時の人の持つエネルギーは凄まじいものがあります。どんな夢を抱くのかで必要とするエネルギーも変わってきます。元気いっぱい、やる気に満ちている、楽しい、熱量に溢れた日々を大切にしてもらいたい。学校から社会に出ると理不尽なことや耐えなければならないことが沢山あるのが事実です。だからこそ、人は夢を持つこと

が大切だと考えます。夢追い人であることが人生を楽しむ鍵かもしれません。

保護者の皆様に御礼を申し上げます。三年間の高校生活ではお子さんの成長を見守りながら、御心配や御苦労もあったことと存じます。皆様が本校の教育活動を御理解され、学校を信頼いただいたことで本日を迎えることができました。誠に有難うございました。卒業生一人ひとりの胸の中にあり、瞳を閉じれば瞼に映る人々や光景は大切な宝として残り続けると信じております。

結びに、本校は本日御出席の竹崎町長はじめ、地元芦北町から多大なる御支援をいただいております。そのお蔭で他校にはない魅力ある学習と安心して学べる環境があります。改めて感謝申し上げます。地域の皆様から愛される高校であることが誇りです。これからも生徒と職員一体で元気と笑顔で前進していきます。御臨席の皆様方、卒業生には、引き続き本校の教育活動に対し、御理解と御支援を賜りますよう、重ねてお願ひ申し上げ、式辞といたします。

令和七年三月一日

熊本県立芦北高等学校長 草野 貴光